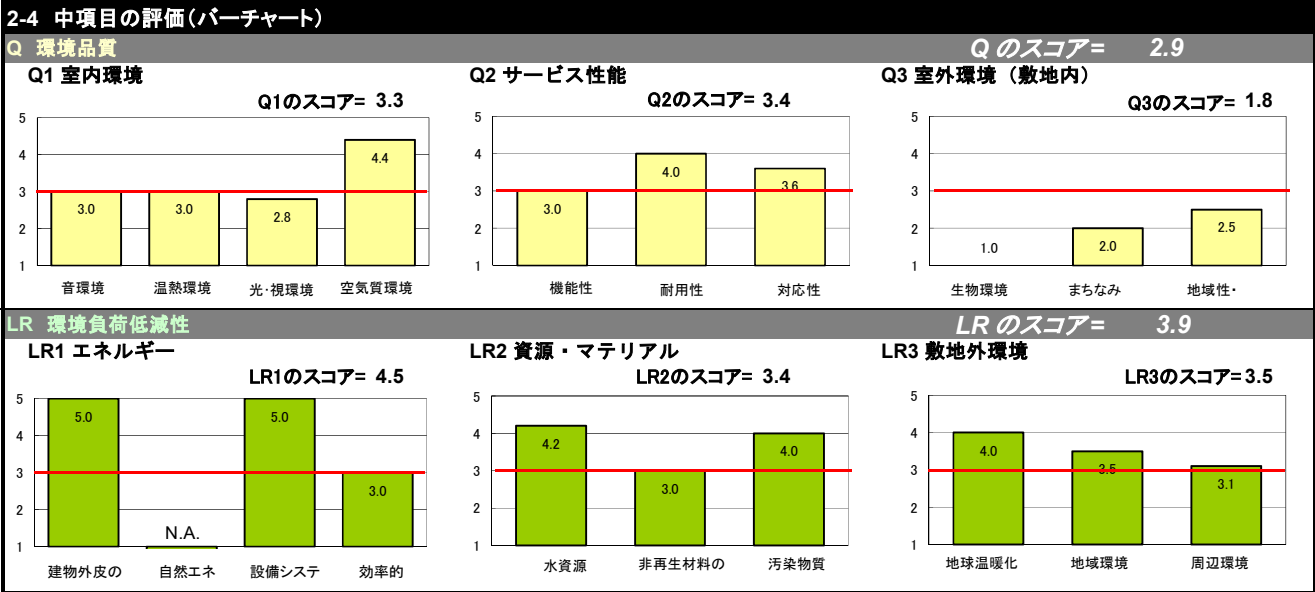
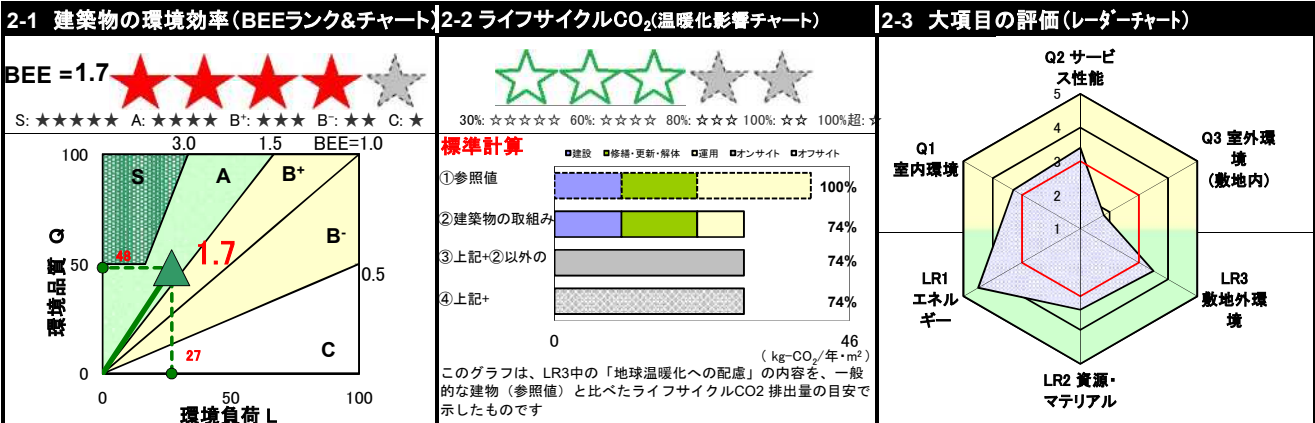


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	静岡県立浜松南高等学校 校舎棟	階数	地上5F
建設地	静岡県浜松市中央区米津町961	構造	S造
用途地域	用途無指定 防火地域	平均居住人員	1,170 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,231 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年7月 予定	評価の実施日	2024年7月1日
敷地面積	32,139 m ²	作成者	竹下昌臣
建築面積	2,231 m ²	確認日	
延床面積	8,234 m ²		



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
これはCASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価結果である。 建築物の環境品質については、ゆとりが有り維持管理のしやすい空間とすることで環境品質が向上するよう努めている。		特になし
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
教室の明るさ、空調「ギンガ」、昨今の社会的背景に対応させた十分な換気量など、室内環境の快適性向上に配慮している。	空間にゆとりを持たせることによって、機能的で使いやすい空間とするとともに将来の変化にも対応できるよう配慮している。 補修・更新間隔が長くなるよう耐用年数の長い部材を選択	外部仕上等において、周辺の街並みや風景にバランスよく調和させている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
外皮性能、一次エネルギー性能において、機器の選択など省エネルギー性向上に配慮している。	有害物質を含まない材料の使用に努めるなどして環境への悪影響の低減を図っている。	近くの気象台を用いて風向風速卓越風などの風環境を把握し、計画に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要										
建物名称	静岡県立浜松南高等学校 校舎棟新築工事				BEE	1.7	BEEランク	A	★★★★	
2. 重点項目への取組み度										
重点項目	得点※/満点		取組み度				評価			
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.9	/5					ふつつ			
”災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	3.7	/5					ふつつ			
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	2.8	/5					がんばろう			
”緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.8	/5					がんばろう			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上		ふつつ 3 点以上		がんばろう 3 点未満		
3. 重点項目についての環境配慮概要										
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。					内訳対応項目					
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)					得点		3.9			
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④過剰な設備設置をひかえ、躯体、仕上、配管の更新必要間隔が長い材料を採用した。				Q-1	2	2.1	2.1.2	① 外皮性能	
					Q-1	3	3.1	3.1.3	② 昼光利用設備	
							3.2	3.2.1	③ 昼光制御	
					Q-2	2	2.2	2.2.1	④ 躯体材料の耐用年数	
							2.2.2	2.2.2	④ 外壁仕上材の補修必要間隔	
							2.2.3	2.2.3	④ 主要内装仕上材の更新必要間隔	
							2.2.4	2.2.4	④ 空調換気ダクトの更新必要間隔	
							2.2.5	2.2.5	④ 空調・給排水配管の更新必要間隔	
							2.2.6	2.2.6	④ 主要設備機器の更新必要間隔	
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤外部仕上等は、周辺の街並みや風景にバランスよく調和させている。				Q-3	1			⑤ 生物環境の保全と創出	
					3	3.2		⑥ 敷地内温熱環境の向上		
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨外皮性能、一次エネルギー性能において、機器の選択など省エネルギー性向上に配慮している。				LR-1	1			⑦ 建物外皮の熱負荷抑制	
						2			⑧ 自然エネルギー利用	
						3			⑨ 設備システムの高効率化	
						4	4.1		⑩ モニタリング	
							4.2		⑩ 運用管理体制	
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪井水利用設備の導入による井水の有効利用。 ⑬有害物質を含まない材料の使用に努めるなどして環境への悪影響の低減を図っている。				LR-2	1	1.1		⑪ 節水	
							1.2	1.2.1	⑪ 雨水利用システム導入の有無	
								1.2.2	⑪ 雑排水等利用システム導入の有無	
					2	2.1			⑫ 材料使用量の削減	
						2.2			⑫ 既存建築躯体等の継続使用	
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮外構の保水対策面積を50%以上とした。 ⑮近くの気象台を用いて風向風速卓越風などの風環境を把握し、計画に配慮した。				LR-3	1			⑭ 地球温暖化への配慮	
						2	2.2		⑮ 温熱環境悪化の改善	
	”災害に強いしずおか”の形成(Disaster)					得点		3.7		
		■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)				Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯ 耐震性
									2.1.2	⑯ 免震・制振性能
								2.4	2.4.1	⑰ 空調・換気設備
									2.4.2	⑰ 給排水・衛生設備
									2.4.3	⑰ 電気設備
									2.4.4	⑰ 機械・配管支持方法
									2.4.5	⑰ 通信・情報設備
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)					得点		2.8			
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ㉑空間にゆとりを持たせることによって、機能的で使いやすい空間とするとともに将来の変化にも対応できるように配慮している。				Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱ ⑲ ユニバーサルデザイン計画	
						3	3.1	3.1.1	⑲ 階高のゆとり	
								3.1.2	⑲ 空間の形状・自由さ	
									㉑ 空間の形状・自由さ	
■室外環境(敷地内)対策 (㉒地域性・アメニティへの配慮)				Q-3	3	3.1			㉒ 地域性への配慮、快適性の向上	
”緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)					得点		2.8			
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) ⑤外部仕上等は、周辺の街並みや風景にバランスよく調和させている。				Q-3	1			⑤ 生物環境の保全と創出	
						2			㉓ まちなみ・景観への配慮	
						3	3.2		㉔ 敷地内温熱環境の向上	
	■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮外構の保水対策面積を50%以上とした。 ⑮近くの気象台を用いて風向風速卓越風などの風環境を把握し、計画に配慮した。				LR-2	2	2.5		⑫ 持続可能な森林から産出された木材	
					LR-3	2	2.2		⑮ 温熱環境悪化の改善	